

そもそも全体学習というのが、あの体育館ですることだけを言ってるのか、クラスづくりを含めて言っているのかっていうので、クラスづくりがベースとしてない全体学習は意味がなかったと思う。2年生で吉成先生が担任になって、1年生の時も全体学習はしてたけど、「まあそういうのがあるんやな」程度という感じだったけど、本格的に面白いなと思うようになったのは、先生が担任になってからだから、形としての全体学習をやっているとするのだったらあまり意味がないのかなと思う。

クラスづくりの中で、多数決とかでなくて、一人一人の意見を最後まで聴くとか、席とかも変なグループでやって、みんなが話ができるようになってた。男子と女子で分かれるわけでもなく、女子の中でも活発な子とあまり話せない子でグループが分かれるわけでもなく、うまく大きいクラス集団としての輪ができてからこそ、自分の気持ちが言えたと思う。全体の中で話ができなくてもグループで話し合ったときに話ができるのも、この子だったら分かってくれるだろうなって、うまく自分の気持ちを言葉にしにくい子でも自分がホンマに言いたいことをこの子だったら分かってくれるなっていうのがあるから言えたと思うから、そういうのがなくていきなりというか、形だけみんなの前で自分の気持ちを言おうみたいなものになると、かなりのリスクがあるから怖い。

あと中学生や高校生の時、正義感が強すぎるというか、善か悪かみたいなものもあるから、やっぱり正しいこと言いたいとか誉められたい、認められたいみたいな、それ以外は排除みたいな感じがあるから、そういうのじゃなくて、いろんな意見があって、いろんな価値観があって、それを出してもいいし、なんでそう考えたんだろうなっていうふうに、相手の気持ちだったりとか、考えだったりとか、そういうのまで気にしながら話ができる。意見が違うからって、「アイツ敵じゃ」みたいになりがちだから、そんなふうにならなくていい状態だったらいい。そうでないとできないことかも。

あのときは、自分は言える方だったから、「なんで言えんのだろう」「自分の思ってることをただ言ったらいいだけ」「誰が何思ってもいい」みたいな感じで思ってたけど、それが言えない子がいて。けど言えないからって何も考えてないわけでもないっていうのも、全体学習の中で、クラスの中で、学活とかしたりとかいろんなことがある中で、そういうのが分かってきた。「なんでいつもあの子道徳のとき寝てるんだろう」とか、「なんで言わないんだろ

う」みたいな、「なんでほとんどの子がいいって言ってるのにあの子だけ反対してるんだろう」とか。それを、学校生活の中で気づいていく、「そうなんじゃよ」って大人が言うんでなくて。(どうやったら気づく?なんで気づけた?)何せひたすら待ってたよね、先生。「早う、もうええでえ」って思ってた(笑)。

(覚えとるなかで象徴的なことってない?)学級通信みたいなのを出してきてて、あれで一回まとめられてた。こんなことあったんだとか。私は結構文字で見ると分かるから、それがすごい理解しやすかった。あの時あんなことがあって、こんなふうになったんだみたいなのが。断片的だけど。全体的に覚えてる感じ。何せ先生がこうやって(両手で頬杖)ずっと待ってたなみたいな(笑)。みんな話すとすうとか、クラスで一つにまとまるって楽しいなって思った。小さい集団だけでなく、仲いい子だけで集まるのでなくて。別にそれが全体学習でなくてもいいだろうし、それが体育祭とか文化祭とか、球技大会とか合唱コンクールとかいろんな行事やっているとすうけど。(学年という集まりについてはどう思う?)学年団として先生は固まっていたんだろうけど。クラスでかたまっていたから。

(全体学習が今の自分におよぼすものは?)やっぱり集団づくりに関わりたいと思う。(なんでそう思う?)毎日毎日学校に通ってきると、クラスが居心地いいってすごく大事。勉強ができるできないよりも、ここに自分がいてもいいんやなっていう、それだけで学校に行きたいなって思えるし、しんどいときは生きとっていいんじゃないかなって思えるから。いろんな人がいて、いろんな価値観があって、いろんな考え方があって、それでいいんじゃないかって。そのなかでどうつながっていったらいいんだろうなって思えるのが大事だし。自分のことも大事だし、相手のことも大事だって思える。もちろんぶつかることもあるんだけど、ぶつかることが悪いことではなくて、ぶつかってみんなで、二人だったら二人で、その落としどころ、クラスだったらクラスみんなでどれが一番いいんだろうなって考えて、落としどころを見つけていくっていうのが一番いいんやなっていうか、一番みんなが納得いくし、気持ちがいいし、みんなで決めたなって思えて、みんなでやっというって思えるからと考えられるようになった。

(そんなふうになってなかった可能性もあるんだろうか?)だって、面倒くさい。自分の考えと合わない人とやっというのって。排除してっていうか、自分の考えと合う人とやっという方が楽しいし、楽だし、そっちの方がいいなと思うけど。けどそれだけだったら面白くないん

だろうなっていうか。自分の考えつかないような考えが出てきたりとか、それぞれでは考えつかないけど、新しいものが生み出せるっていうか、ぶつかることで相手のことがより深く知れる。より自分のことも分かってもらえる。それが楽しいと思えるようになった。全体学習だけではないと思うけど。私の中ではクラス単位だけ。まあグループの中だけでいるよりかっていう感じ。グループを転々とするっていうわけでもなく、合わないからハイみたいな。まあそういう時期でもあるんだけどね。発達の過程で。そういう時期でもあるんだけど、そのままではやっぱり残念というか、もうちょっと次の段階に成長するためには、自分と意見が違ってても、価値観が違ってても、生き方が違ってても、分かり合いたいっていうか、人に対する興味みたいな。諦めなかった、先生は。しつこいっていうか何ていうか。もういいでえみたいのところを、最後までやるっていうか、一人でも納得しなかったらっていうところがあったから、ずっと。いいでえ一人ぐらいいっていう感じだったけど。けどいいでえ一人ぐらいいしてたら、ずっと残ってたのかもしれない。あの時期にそういう思考っていうのは、人格形成に影響を与えたっていうことだと思う。そのベースはできたんだと思う。

その後高校に行ったら、そんなにクラスがまとまるようなことっていうのはしないから、物足りないっていうか、何となくでのつき合いっていうか、全体としては別に大きな問題があるわけではないし。小さい問題は山ほど起こるけどみたいな。そんな感じだったけど、3年間ずっと同じクラスだったけど、そんなになっていく感じだったから、ホンマに信頼していいのかなみたいな。

私はそういう深いつき合いがしたかったから、そういう所に行く。行ってたから。自分で見つけて。高校生友の会もそうだけど、今の仕事にしても、今の仕事に就いて、いろんなことを深く考える人もいれば、仕事としてしてる人もいて。そういう人と話をして、どういうふうにしたらいいかっていうことが話せるところに行く。学校の中でって言えばゲリラ戦法しかないし、学校が大きくなればなるほど難しい。

何を求めて全体学習をしたのかはこっちが訊きたい。必死だったんだろうなということは伝わってた。だから必死になれた。先生が対等に降りてきてくれたことが大きかった。他のこと(生徒指導や部活動や進路指導)は上からで指導みたいな感じだから、一緒に並べられたら何ともイメージが分かりにくいかもしれないけど、人間対人間のつき合いとして向き合ってくれるから、向き合おうとしたと思うから、それが人権教育だから分かりやす

かったと思う。教員側の姿勢っていうか。でも、「お前や何も分からんから教えてやるぞ」みたいな感じだったら、人権教育でも。正解があるようでないし。

今の子らでも可能じゃないかな。生徒ってビックリするくらい素直。〇〇(高校名)の子しか見てないけど、おとなしい。〇〇の子は精神的に健康な子が多い。病んでる子はおるけど、ゆがんでるような子はいない。素直に受け取る子が多い。もうちょっと元気があってもいいかなと思う。変な方向に自己主張しよる子はおるけど。昔のやんちゃではなく、いたずらっ子ではなく、幼い。小さい子が気を引きたくてしてるような感じ。責任をとりたくない。保健室に来て、お腹が痛いですって来ます。熱があるわけでもなく、お腹が痛いわけでもなく。正解を教えてもらわないと自分では決められない。寝たいなら寝たいって言えば寝かしてあげるのに。子どもが親に見切りをつけるしかない。